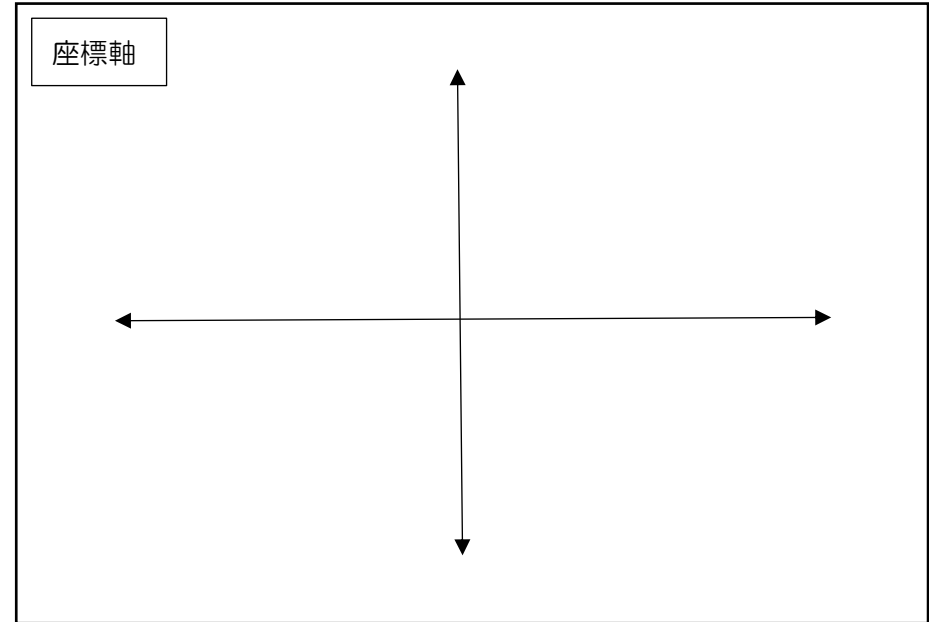


座標軸

2つの軸を立てて対象を位置付けることによって物事を整理するために使う。例えば「長所 \leftrightarrow 短所」という軸を立てると、どれぐらい長所か（短所か）という程度を考慮することになる。座標軸を数学的に理解させる必要はなく、軸の端の方では何かの程度が大きくなり、反対方向ではそれが小さくなるというようにイメージできるようにする。

具体的な事例を位置付けるとき「比較する」「分類する」「変化をとらえる」「評価する」などとかかわり、配置から全体の傾向を考えると「抽象化する」と関係する。



【使い方】

- ①座標に何を設定するのかを決めます。「時間」の場合は、いつからいつまでかを明確にします。「自分たち \leftrightarrow 地域」「時間がかかる \leftrightarrow すぐできること」というように、レベルが連続的に変わらないようなものでも、頭の整理に役立つのであればかまわない。
- ②学習内容に応じて、できごと、気付いたこと、感じたこと、わかったことなど、書くことを決めて座標に書き込ませます。グループでの活動の場合は、一度付箋紙に書いてからみんなで貼り込んでいくようにさせると、同時かつ共同的に作業が進みます。
- ③書き込みが終わったら、全体をながめて気付くことをまとめる。そのとき、各象限ごとにみていくことで、特徴が分かりやすくなる。
- ④わかったことを元にして、どのようにすればいいのかを考えたり話し合ったりさせます。

